

いしずえ

礎

茨城県民間保育協議会青年部

■第3回H-1グランプリ開催報告

平成24年12月26日、茨城県総合福祉会館において第3回H-1グランプリを開催いたしました。今回のテーマは『運動会』でした。

今回のH-1は3回目とあって、とてもレベルが高い大会になりました。その大会を制したのはさしま保育園。選んだ理由としては、「地域！すごい！社会福祉全体でできる。共同性がある」「地域に根付いているところがすごい」「おじいちゃん、おばあちゃんもただ観覧しているだけでなく一緒に体を動かして、本当に楽しそうです。」など、遊育の吉田先生もおっしゃっていたキーワード「地域密着型」を見事に実践している素敵な運動会でした。

第2位は第1、2回グランプリをとったわかな保育園。第3位は結城市のふたば保育園でした。

今回、さしま保育園の中川先生より優勝のコメントを頂きましたのでご紹介いたします。

正直なところ、5番手くらいに入賞できれば保育士さんたちに喜んでもらえると思っていたので、グランプリとは恐れ多く、ありがたいと思いながら驚いているところです。

私どもの保育園の運動会は皆さんに見ていただいたように、法人全体で地域の方もお招きして実施しています。ただ、初めてさしま保育園の運動会に来られた保護者の方には、正直なところ戸惑いを見せる方もいます。というのは、小さな子どもたちによって和気あいあいと進められる保育園、幼稚園の運動会をイメージしていた方にとっては、園児のプログラムとプログラムの間に、知的障がいや肢体不自由な方のプログラムが入ることに違和感を持たれる方もいます。数年前には「子どもたちだけの運動会にしてほしい」というアンケートも頂いたこともあります。

子どもたちは障がいを持った方をそれが当たり前のように受け入れますが、大人はそのギャップに驚かれるようです。ただし、最近の入園説明会時に「倶会一処（くえいっしょ）」の法人の理念とさしま保育園の運動会の趣旨を説明し、また園だよりでも周知することによって、そのような意見を言う保護者もなくなりました。写真の通り、今はみんな楽しんで運動会に参加してもらっています。今回の受賞はこれまで頑張ってきた職員にとって何よりの励みになります。今後もより一層、子どもたちのため、地域のために社会資源となるような施設運営を心掛けていきたいと思っております。

※今回優勝したさしま保育園の作品を別紙にて同封してあります。



☆ トピックス ☆

- 第3回H-1グランプリ報告
- 平成24年度研修会報告
- 日本保育協会青年部報告
- 全国私立保育園連盟青年会議報告
- 各委員会から1年を振り返って

エコ活動の一環として、両面印刷、NO ホチキスにて配布いたします。御了承下さい。



■茨城県民間保育協議会青年部研修会報告

平成25年2月12日から14日にかけて総勢19名で沖縄県にあるあおぞら保育園を視察させていただきました。

初日は茨城空港から神戸を經由して沖縄へ向かいました。私は初めて利用した茨城空港ですが、小規模だからこそその利便性があるということが搭乗手続きのスムーズさから感じました。また機会があればぜひ利用したいと思います。

あおぞら保育園は1600坪の広々とした敷地の中、科学的な根拠に裏付けされた生活と遊びを一体とした保育を実践している保育園です。到着後、まず驚いたのは緑の芝生の上を裸足でどろんこになりながらとても楽しそうな笑顔で元気に遊ぶ子供たちの姿です。この季節の茨城県では、半袖短パンで外遊びはできませんので温暖な沖縄県ならではの保育に

驚くと同時に羨ましく感じてしまいました。園長先生に案内していただいた施設では様々な工夫がされており、備え付けのプールでは水面に反射する光にもこだわって設計されたというお話をされていました。隣接するあおぞら第2保育園も視察させていただき、ホールで2園の年長児、年中児によるピアノに合わせて行うリズム遊びを見学しました。3メートルはある登り棒や、8段の跳び箱を楽々とこなしていく園児たちの姿がとても印象的でしたが、それは0歳児からの成長を大切にすることでその育ちの結果が今こうして現れているとのことでした。その後行われた懇親会では、沖縄県青年部の方々にも参加していただき親睦を深めながら保育に関して活発な意見交換が行うことができとても有意義な視察研修となりました。

恵泉保育園 藤峰 望夢

今回参加して下さった保育士の方々の感想

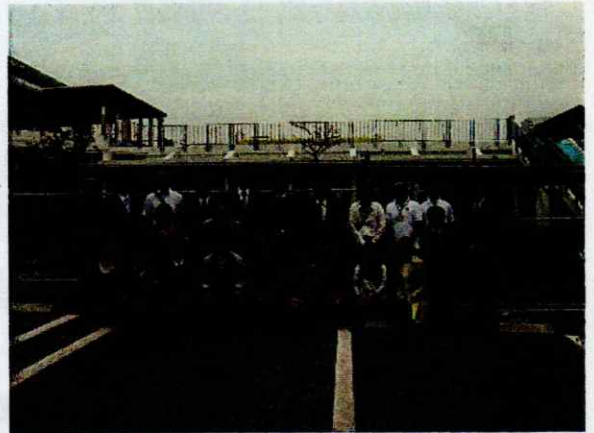
沖縄にて「あおぞら保育園」・「あおぞら第2保育園」視察研修に参加してまいりました。「絵画室」が素晴らしい「あおぞら保育園」は、「水・砂・土 季節の草花や自然がいっぱい」のキャッチフレーズ通りの環境で、子どもたちが一年中、しかも天気によらず生活している様子がよくわかりました。園長先生を中心に「志」を共有する職員集団であることも伝わってきました。

「あおぞら第2保育園」では、園舎から見える起伏の多い園庭が、なんと子どもたちの好奇心をくすぐるのだろうな・・・と思いました。工夫を凝らしたテラスの階段の形状や、2階へ向かう階段下のスペース、トイレの位置、植物、広々としたホール・・・全てが感動的でした。子どもたちに食事場所を自由に選択させるなど「食」をとことん楽しんでいることも。

両園共に子どもたちは伸び伸び、おおらか、いきいき、そして好奇心・向上心・忍耐力・思いやりがある子に育っているのが、子どもたちの遊びの様子や表情から伺うことができました。

自園の人的、物的環境を見直す良い機会となりました。ありがとうございました。

瓜連保育園主任保育士 清水よし子



沖縄県（あおぞら保育園）の視察研修に保育士として参加させて頂きました。視察ではまず制約の無いのびのびとした環境に開放感を感じました。ガジュマルの木・起伏の多い園庭で遊ぶことで興味も果てしなく広がるだろうなと思われました。保育室がきれいなことにも驚きました。きちんと整理されていて子ども達も遊びやすく、きれいに使おうとする気持ちも芽生えてゆくのでは。ぜひ室内での活動も見てみたいです。

明るい雰囲気のおおぞら第2保育園では、園舎と園庭の行き来がスムーズで広く見渡せる作りでした。カフェのように・・・という思いの通り、階段のディスプレイや絵本コーナー、机やイスに至るまで興味をそそられる魅力的な場所でした。

子ども達の明るさや夢中で遊ぶ姿は見ている方も楽しく、子どもから湧き上がる好奇心がうまく遊びにつながり、さらに広がっているようでした。「基礎が外遊び」という言葉が身体能力の高さに表れていて、自園ですでに取り入れているリズム運動も、改めて参考になることが多かったです。子どもと共に楽しみ、接することで「指導」は必要なくなる・・・ハッとしました。午後も快く見学させていただき、その際伺った園長先生のお話、「子どもの心が表れる自然な絵を描かれていますか」のお話が心に残っています。自身の日頃の保育を振りかえり、大いに刺激を受けることができました。

つばさ保育園 市毛由衣

■特別委員会研修報告

平成25年3月6日、特別委員会研修会が東京のこどもの城にて開催されました。テーマを「現状の保育制度を学び、これからの認定こども園を考える」とし、講師には「遊育」編集長の吉田正幸先生をお招きして、児童福祉法の基本原理、最低基準、保育指針等について、また、認定こども園制度について21名で学びました。実際の法令の文言を確認しながらの講義となり、現行の保育制度をきちんと理解した上で新制度移行への準備を進めることの大切さを学びました。また、新制度のもとでは、基礎自治体である市町村が大変重要な役割を果たすこととなるため、地方版子ども・子育て会議に保育関係者が参画し、現場からの声を正しく行政や地域に伝えていくことが必要であると考えさせられました。休憩をはさんで後半は活気ある質疑応答を含め保育現場での悩みや疑問等、青年部らしい活発な意見交換も行われました。

真壁保育園 長谷川夏生



■日本保育協会青年部報告

2013年2月20日、国会議事堂や首相官邸にほど近い、自由民主会館で行われた日本保育協会・日本保育推進連盟青年部の第19回青年部セミナーに初めて参加しました。

国家公安委員会委員長である野田毅衆議院議員を皮切りに、野田聖子総務会長、日頃より保育施策に尽力している有村治子参議院議員と、これからの日本を見据えた論々に身の引き締まる思いでした。その後交流会にて各地選出の議員の先生方とお話をする機会を得ました。そこで痛感したのは、集団を形成する必要性についてです。政治家へのアプローチ

が重要なウェイトを占めることを鑑み、保育界は過去にも多くの場で団体を作り活動することで、有効な施策を引き出してきました。しかしこの重要性がこれからを担う若い後継者の皆さんにきちんと伝えられているか・・・いや、伝えてゆかなくてはならないのだろうな・・・青年部に参加するととても実感することができるのだが・・・様々な思いのよぎる一日となりました。

瓜連保育園 副園長 小笠原聖華



■(公社)全国私立保育園連盟青年会議報告

平成25年2月26日 東京の浅草ビューホテルにおいて(公社)全国私立保育園連盟青年会議 第8回特別セミナーが行われました。

「いまつながること・私たちに出来ること」～つながる個、それぞれの東日本大震災～と題して開かれた特別セミナーは、私たちにもう一度被災地の現状を知らしめ、再び熱き思いを湧き上がらせるものとなりました。

第1部では「ソーシャルメディアが切り拓く未来」～3.11以降社会はどう変わったか～と題してジャーナリストの津田大介氏より、ツイッター、ライン等が震災でも役立ち、震災後も支援の一役を担っていること、急速に進むソーシャルメディアを上手に利用してほしいと講演されました。



第2部のパネルディスカッションでは作家の大野更紗氏、福島県保育協議会事務局長の渡辺恭子氏、青年会議幹事代表の宮林佳子氏の3人が、それぞれの東日本大震災について思いを述べられました。遅々として進まない現状、あちこちに広がる荒野のような風景、風評被害、放射能に対する不安等。そんな中、全国各地の青年部のメンバーが手を挙げ、「被災地の子どもたち支援」が進みました。

北海道では保育士派遣事業、東京では福島の子どもたちに遠足貸切バス代の支援金、九州と熊本ではくまもん復興支援Tシャツ販売が行われ、合計1,000万を超える支援金が集まりました。その他、各地で多くの支援が行われました。これもすべて繋がりがもたらしたことではないでしょうか。

この研修を通して示されたことがあります。それは、皆が協力し合い、手を取り合えば、小さなこともそれが大きな波になるということ。そして最も大事なことは決して東北の地を忘れずにいること。東北の復興が速やかに進むことを心から願います。

大会顧問 こばと保育園 園長 工藤義人

■第33回(公社)全国私立保育園連盟青年会議茨城大会実行委員会報告

来年度行われる茨城大会「集え！友よ！学び舎に」のテーマを掲げ大会に向けて、お迎えする立場で、茨城の事を自分たちが知らないといけないという考えから、平成25年1月25日、水戸市にあるリリー保育福祉専門学校において『豊田 英雄 勉強会』を行いました。講師には、リリー保育福祉専門学校の講師、多田恵子先生をお迎えして、写真や当時の文献を元に分かりやすく説明を頂きました。豊田英雄氏の知名度は低くあまり知られていませんが、

日本人初の保育士として、恩物(折り紙や積み木)を取り入れた教育や昭和に至るまでのすばらしい活躍など、数々の功績を残した方でした。勉強会終了後は、水戸第二高等学校校門前にある、豊田英雄の銅像と写真撮影をしました。日本初の保育士が茨城とゆかり深いこと、また先駆者として多くの困難を物ともせず立ち向かったであろうその強い信念に思いを馳せ、明日からの保育への新たな責任感を胸にした研修となりました。

広報部長 堀川保育園 堀川宗愛

■実行委員長から■

平成24年度のこの1年間は、平成25年度の全国茨城大会に向け、実行委員会(県青年部)の皆様にも多くの時間をいただき会議にてより多くの参加者を募る大会としての検討・議論をさせていただきました。この1年間の検討事項をベースに来年度の全国大会は、多くの皆さまを快く受け入れられるように実行委員会一丸となって進めていきたいと思っております。

実行委員長 国分台ふたば保育園 園長 柳澤 克彦

※別紙にて第33回全国保育園連盟青年会議茨城大会のチラシも同封させていただきました。

■平成24年度民間保育協議会青年部委員会活動報告

■調査研究委員会■

副委員長 つくし学園 鬼澤 英二

今回、保小連携・接続のさまざま調査をした中で、自治体や各施設並びに小学校での接続への取り組みは、まだ十分実施されていない現状であることが分かりました。その中で、子どもたちをつなぐ一つの役目として作成している「保育所児童保育要録」は、受け取り手である小学校の先生方へアンケート調査を行った事で、私たちが抱えていた疑問や不安への答えが出せた様に思います。

昨年の渉外委員会主催の埼玉県幼稚園青年部との交流や、今回の調査へご協力頂いた教育委員会等の関わりなど、今後も積極的にアプローチし、情報共有を図りたいと思います。また、各委員の参加ご協力を改めて感謝いたします。ありがとうございました。

■渉外委員会■

委員長 筑子ファミリア保育園 中山 天公

保育の情報交換の場の提供と青年部の横の繋がりを広げることが保育の質の向上に繋がると信じ、活動してきた渉外委員会。H1 グランプリや埼玉幼稚園青年部との情報交換会などを通して、充実した委員会活動ができたような気がしています。私にとってH1 グランプリを行い、素晴らしい保育を展開している園にたくさん出会えたことが、渉外委員会活動での一番の宝物です。お忙しい中、参加して下さった保育園の皆様、有難うございました。

■広報委員会■

委員長 堀川保育園 堀川宗愛

この1年広報委員会としては、青年部活動を皆様に知っていただくために、広報誌「礎」にて各種情報を掲載してまいりました。

今年は、独自のテーマを持たず、各委員会、また、平成25年度に行われる第33回全国私立保育園連盟青年会議茨城大会の裏方的存在として、活動してきました。「礎」製作に関わってくださった先生方、本当にありがとうございました。

■研修委員会■

委員長 笠原保育園 所 隆一

24年度研修委員会として一年を振り返ってみますと、いろいろ思い出されることがあります。

本年度は13名の会員と共に活動を開始いたしました、25年度以降、保育業界も様々な改革があり、地域性や施設種類によりどのような対応が求められているのか知りたく、「いろいろな施設を視察する。」とのテーマで開始いたしました。

まず最初に、近々同敷地内で園舎を改築する予定の公立幼稚園を視察させていただきました、園長先生にお話しいただいた例をお伝えすると遊具や倉庫など、処分する金額と移動保管の金額を比較し処分の方が安ければ、いくら思い出が残っているものでも廃棄処分されてしまう、工事優先で行事を行うスペースや品物がないなど、打ち合わせを行うたびに工事優先で今年度の卒園児達の思い出が心配になってしまうなど、私たちも大変共感できるものでした。本題の幼稚園での保育に対する考えとしては、近隣の公立保育園と連携し考えていく方向ですとの事でした。

その後は全私保連青年会議の熊本市大会に参加し、次年度行われる茨城大会での研修部員として大会の流れを視察し、最後に沖縄県の「あおぞら保育園」を視察いたしました。(詳細につきましては報告書にて記載)

最後になりますが、研修委員会として一年活動してきました、本当にたくさんのお会いや教えて頂く事があり大変勉強になりました、そしてなによりも私自身、他の研修委員の先生方及び参加いただいた先生方と、同じ方向を向いて活動をすることができ、とても感動できる年度になりました。

■特別委員会■

委員長 しらはね保育園 田尻育子

1年に渡り委員会活動をしてきました。子ども・子育て関連3法が成立し、国においては新たな制度への取り組みが進み、特別委員会の活動といたしましては、日本保育協会より流れてくる速報や全国私立保育園連盟より流れてくるメールを読み解き、多方面にわたり情報を収集してきました。また遊育 編集長 吉田正幸氏、認定こども園 飯沼保育園 東ヶ崎静仁先生を講師にお迎えし合計3回研修会の開催に取り組みました。児童福祉法や現行の保育制度、現行の認定こども園、これからの認定こども園を青年部の皆様と共に学ぶことができ嬉しく思います。研修会におきましてはたくさんの皆様にご参加、ご協力いただきお礼申し上げます。委員会活動を通して人との繋がりを新たに感じ、チャンスを与えてくれた部長、その他にも関わりを与えてくれた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後はさらにアンテナを張り、認定こども園法について取り組んだ内容を深く読み解き、学び、青年部らしくまとめていきたいと思えます。

■事務局■

事務局員 つばさ保育園 河野 明子

今年度の事務局では、民保協青年部の他に全私保連青年部茨城大会の総務部として活動してきました。通常の事務局の活動と平行しての大会準備だったので、混乱する部分も多く皆様にはご迷惑をお掛けする部分も多かったと思いますが、萱場局長、逆井次長とチームワークを組み良い連携が取れたと思えます。

また、事務局主催の研修会としては、株式会社ポラリスネクストウィンドの杉村基樹氏を講師にお迎えし、「チームワーク基本構図」についての勉強会を開きました。参加対象を保育現場の先生にまで広げ、多くの参加者とともに有意義な時間を持つことが出来ました。

事務局活動を通じ、私自身も多くの青年部の皆様と関わりを持てたことを嬉しく思います。また、たくさんの気づきを与えてくれた皆様に感謝します。部長をはじめ、各委員会の先生方には多くのご協力を頂きありがとうございました。

ちよつといい話

今回のH-1グランプリでは冊子を作りました。H-1大会の最後に、冊子の表紙が一冊だけイラストを少し変えて、その冊子を選んだ人にプレゼントをあげるというアトラクションを行いました。

当たりがわかっていた私は誰がその冊子をとるか見ていたのですが、冊子のホッチキスでとめていたところが少し破けていて汚くなっていたせいかみんなそれをなんとなく避けて綺麗なものを選んでいました。最後に残った当たりを含む二つの冊子をまだ選んでいなかったF先生とY先生のところに持っていきました。すると、その二つの冊子を受け取ったF先生は、汚い冊子方を自分で選び、綺麗な冊子をY先生の机の上に置きました。

F先生には私にもY先生にも見られている意識はなかったと思えます。F先生が一人で自然にとっていたその親切を背中越しに見た私は、ちよつとあたたかい気持ちになりました。本人に言ってもとぼけるでしょうが、本人にとっては、当たり前のことなので覚えてないかもしれませんが、破けていた冊子が「当たり」と知っていた私だけが見ることができた素敵な出来事でした。

渉外委員 N